



発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部



終身の計は人を樹うるに如くはなし

デイ雲柿の木 所長 原口由紀子

「百年先を見るなら、人を育てよ」

人の成長には、気の遠くなるよう

な時間がかかることを覚悟しなければなりません。なんと根気のいる話

なのでしょいか。

私達の職場には多様な特性を持つ

人間が集まり、働いています。生ま

れ育った環境や思想や、考えも習慣

変わるのは人材育成だけではなく

法人設立の11月11日直近の土曜日、神社祭を開催します。これまで昼の部と夜の部に分かれ、昼は利用者や保護者の皆様、地域の子供達を招いて賑わい、夜の部は地域や関係者の方をご招待して直会でした。新型コロナウイルス感染防止のため、数年前より夜の直会開催を見合わせ、昼に直会を同時進行していました。地域の方々の高齢化や、夜間の飲食の意識の変化、そして職員が働く時間と意識の変化等を検討の結果、今年も昼の部と同時進行の直会となりました。

時代の変化と習わしの変化が必要な時期ですが、その判断を誤らないようにしたいと思っています。

デイ雲柿の木 福田恵理



健康福祉祭りに出展したデイ雲（左）石川智広さん（右上）太田啓二さん（右下）の作品

「しかし、なぜか一緒に働くことが出来る重要な「何か」は、あると思っ
ています。決して、スピリチュアルな
事を語っているのではなく、多様な
人材が成長し、この不思議な集団を
向上させるには、時間だけでは解決
できない要素が必要と考えます。
ちっちゃい何かの種を蒔き、育て
て、それが働く拠り所となり、社会人
となり、組織人として職場そのもの
を表現するようになるといったイメ
ージは、どうでしょう。
さて、「人を育てる」には、育てる
環境の寛容性と忍耐の有無が影響す
ると思うのですが、昨今の超人材不
足は、環境である職場の存続さえ危
ぶまれる厳しい状況にあることを考
えると、どのようにして環境を作っ

たって違うのです。同じなのは、「謎
のちっちゃい」何か。一緒に職場にい
る方向性みたいな？家族の血？みた
いな。それは具体的ではなく、もしか
したら個別には違う「何か」かもしれ
ないのです。
選ばずに申し上げれば、中途採用
で、年齢の高い方が増えすぎると、
五年先が見えない職場になってしま
います。やはり、体力が必要な支
援も多く、瞬発力も必要です。

悪いというのではなく、偏りは歪
みを発生させると思うのです。その
ためには若い年代の方の採用を増
やすことが重要です。彼らを受け入
れるにあっても職場には寛容性と
忍耐が求められます。特に教育の賜
物か、打たれ弱く、痛みを知らない
特性を持つている方が多く、彼らの
成長はゆつくりのように感じます。
更に、製造業のようにデジタルト
ランスフォーメーションが取り入
れやすい業種とは違い、人が対面に
よって完結できる要素が多いので、
機械で補完は出来ても、完全機械化
は難しいようです。
それでも、やはり百年先を楽しむ
為に、人が育つ職場となるよう考え
て、考えて、考えています。

ほかにわのOnly Oneの言葉

ほかにわのOnly Oneのクレジット



クレドとはラテン語で「志・約束・信
条」を表す言葉です。企業理念に基づく、
従業員ひとりひとりの信条や行動指針
として表され、従業員の育成やモチベ
ーションアップにもつながります。

当法人でも事業所の計画方針の一つ
一つがそれにあたるのではないかと考
え、常に目的や目標を見据えた行動をし
ていきたいです。

デイ雲 濱田 由佳

ほかにわのOnly Oneの大樹

この木何の木気になる気♪で始まる
歌を知っていますか？歌詞に、大地に根
を張り、大きな枝を広げ、花を咲かせて
身を結ぶとあります。未知の木に対する
純粋な好奇心と、木が成長して将来どん
な姿になるのか期待を表現しています。
将来自分自身も、小さくても花を咲か
せ、実を結ぶよう頑張っていきたいと
思います。

悠炉里 原川 厚美

ほかにわのOnly Oneの先読み行動

目の前の事だけど、視野が狭くなり、
余裕もなく回りが見えなくなってきた
す。先読みしながら行動すると、スム
ーズに流れ、連携も取れてくると思いま
す。ワークネットやはた 松本智恵美



国際障害者年（一九八二）、八雲寮のランナーが別府大分毎日国際マラソンに五名参加し、二名が時間内完走した。当時、障害者がスポーツをする環境が未整備の中で、障害者スポーツへの認識を変え、その後の「車椅子マラソン」の国際大会の開催につながるなど、障害者スポーツの発展に大きく貢献した。同じ年の同月15日第15回青梅マラソン開催から、伴走付きで盲人ランナーの参加が認められるようになった。当時の点字新聞などによると、「八雲寮ランナーの快挙」が、全盲ランナー参加への道を開いたとされている。通称「別大マラソン」を完走した、最もよく知られている事例は伊藤竜也選手の二〇一九年の第68回大会に一般参加者として出場し、三時間未満で完走する快挙を成し遂げたが、八雲寮ランナー山口安行は二時間五十九分で完走した。知的障害者ではなく一般市民ランナーとしてだった。

マラソンランナー 木場田学の世界



そのランナーの一人木場田学君が他界した。享年72歳、五島出身だった。学君との思い出は、三人の子供を施設内で育てたので、雨の日に名は洗濯物を、本人が旅行に行くと我が子を兄弟のように「呼び捨て」、「ほら土産」と手渡してくれたものです。

性格は実直で人の好い若者であったが、マラソンランナーとして貢献した一人である。それは当時、知的障害という言葉がなく、「精神薄弱者」、若しくは「精薄」と呼ばれていたが、その用語「精薄」に噛みついたマスコミの「善意」があったが、本当の善意に満ちた認識だったのだろうかという問題提起が「週刊新潮」81年2月19日「特集」で議論が戦わされた。当然、私にも、テレビ局のディレクターにも質問が有り、評論家、作家、行政マンなど八名のご意見と批判が示された。文字数で二千七百五十である。志賀の「三輪シャドウ・ラッピング手法」で謎解きを試みた。

それぞれの立場のご意見はもともなことである。元来、「差別用語」などというものは存在するのだろうかという疑問に突き当たる。その言葉がやり玉にあがるから「差別用語」といわれているのではないだろうか。どういうわけか「精薄」と



口之津歴史民俗資料館新館五周年記念 シンポジウム「(仮)口之津港のドラマ」

口之津港開港のドラマ
講師 志賀俊紀



アルメイダと口之津港のドラマ
乃木 リリー(脚本家・作詞家)

乃木リリーさん(アルメイダに由縁ある人)

南島原市・口之津歴史民俗資料館本館の開設5周年を記念したシンポジウムが開催されます。私は「ルイス・デ・アルメイダの軌跡」について基調講演を行います。◆南島原市には、島原・天草一揆の舞台となった原城や、天正遣欧少年使節が持ち帰ったグーテンベルク印刷機を安置した加津佐コレジオなどがあり、中でも口之津は、16世紀の南蛮船来航や近代の貿易港として栄えました。◆16世紀、ルイス・デ・アルメイダもこの地に立ったかと思うと、訪れるたび胸が高鳴ります。あたたかい人々と静かな時間が流れる口之津は、私にとって第二の故郷のような存在です。そんな場所で、アルメイダの物語を語れること、心から光栄に思っています。



旭化成延岡マラソン参加・完走
八雲寮ランナー木場田学

キリシタン布教と口之津の切支丹

長崎純心大学大学院教授 滝澤修身

『西日本文化 CNS』—長崎がもたらした近世文化—滝澤修身先生の寄稿文から「私は、スペインのマドリードコンプルテンセ大学（国立）で同国の中世史を学び、指導教官を務め、スペイン国内に保管されている16・17世紀の日本宣教師にまつわる古文書の研究を始めた。イエズス会や托鉢修道会の宣教師らが書き残した多くの書簡や古文書が保管されていた。スペインには13年滞在した。」と冒頭述べられているが、今回のシンポジウムでは、有馬領口之津の謎解きを学術的にされた。

週刊新潮の記事内容を発信者の言葉の文字数で分析

- ① 問題提起の背景に関しての問題提起者(ある広告代理店役員氏)3回で735文字、記者2回で859文字、NBC長崎放送局森ディレクター218文字、志賀俊紀217文字、放送評論家氏569文字。
- ② “精薄”か“精神薄弱”に関しての問題提起者337文字、志賀俊紀303文字、記者395文字。
- ③ 差別用語の運命(放送関係の実態事例)に関して神奈川県管轄の課長304文字、部長331文字、テレビ関係の実例957文字。
- ④ 言い換えることに関しての問題提起462文字、東京学芸大学の教授氏251文字、評論家氏120文字、記者のまとめ217文字。の構成で論じられている。この議論にはダウン症というキーワードは出てはこなかった。

結論 精神薄弱という「公用語」が、何時・何処で始まったのかは定かではない。その用語は言葉のニュアンスが適否の議論は、1981年、国際障害者年頃から、俄かに問題になった経緯があるとすれば、八雲寮のマラソン活動は“差別用語”の解放運動に寄与したといえる。



11月号 No.219



「ながさきピース文化祭」として本県を舞台に開催された国民文化祭、障害者芸術・文化祭。デイ雲も展示や出演で参加しました。

みんなでつくるピースな未来

有家コレジオホールで開催された、健康福祉まつりにデイ雲で制作した作品を展示しました。作品のテーマを「みんながピース」とし、大きなカラフルに彩られた地球を、人と人が手を取り合い支える姿を表現しました。

地球の色を塗ってみてというお題で、利用者の方々が思う「地球色」を二十枚以上組み合わせると、それぞれの個性が繋がり、やがて大きな色とりどりの地球が完成しました。

それぞれの個性を認め、尊重し合える優しい未来は、私たちが作っていかねばなりません。誰も皆一人ではなく、手を取り合える仲間がいることを忘れないように。

副主任 濱田由佳



一人ひとりの個性がつながりオンリーワンの作品が完成



今回も皆様の大きな声援に感謝します。
(小山)

声援に感謝 ～障害者芸術祭～

前号でも告知していた障害者芸術祭へのヘルマンハープ出演を、九月二十一日に無事終えることができました。終演後多くのお声掛けをいただきました。

仮装大会でみんな笑顔に Halloween

10月31日、毎年恒例のハロウィンパーティーを行いました。利用者さん、職員共々仮装をしてパーティーを楽しむ準備バッチリ!!

今回2種類のゲームを用意しました。1つ目はテープを貼った的にピンポン玉を投げてくっつけるゲーム、2つ目はカードの絵合わせゲーム。簡単なようで難しく、皆さん苦戦されていました。

2つのゲームをクリアすると、ヒントが書いてある紙をゲット!!さあ、宝さがしの始まりです!!隠されたおやつを探し出し、皆さん笑顔でお茶会を楽しまれていました。(井上・馬場)



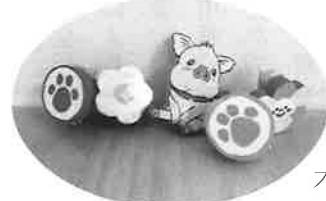
ふれあい祭りに出店します

デイ雲の作業活動で生産した商品は、口之津港の売店で常時販売している以外にも、1年を通し色々な催事に出店し販売を行っています。11月には町内で行われる「夢・手づくりふれあい祭り」に、今年も出店します。

地元の祭りであり、毎年ほかにわ共和国デイ雲の名で出店すると、数多くのお客さんが商品を手に取って下さいます。購入して頂くのはもちろん喜ばしいですが、質問を受ける事や説明をして、施設や取り組みに興味を持ってもらえることがとても貴重な場だと感じます。頂いた意見を参考に新商品を考えたりもするので、催事で見かけられたら気軽にお立ちより下さい。これからも、利用者さんの温もりが感じられる手作り雑貨をご提供いたします。(高松)



木工班で制作した商品(左)と作業の様子(上)



酒井さんは令和三年より利用を開始、現在は木工班で作業されています。

テレビで野球を観るのが楽しみです。ソフトバンクを応援しています。

雲と虹

運動会・神社祭も終わり、少しずつ冬の気配を感じるようになってきました。最新のニュースでは、全国レベルでのインフルエンザ流行の兆しをよく耳にします。

デイ雲でも感染症まん延防止の取り組みとして、十月に職員・利用者の方と事業所内研修を実施しました。事業所の看護師が講師となり、手洗いやうがいの方法を実演で一緒に学び、その後職員は感染症発生時の対応方法について研修を実施しました。

今後も定期的に研修や訓練を実施することで、感染症発生時に的確な判断とまん延防止に努められるように、一人一人の意識を高めていきたいと考えています。

統括 福田 亮

行事予定 12・1月

- ・利用者忘年会
- ・クリスマス会
- ・年賀抽選会

※状況により延期・中止になる場合があります。

悠炉里

共同生活援助事業所

(介護サービス包括型)

悠炉里広報誌

11月号



感謝の清掃活動

十一月二日に悠炉里自治会でいつもお世話になっている地域の方にお礼の意味も込めて清掃活動をしました。今年初めての取り組みでしたが、みんな嫌な顔せず自治会活動へ参加してくれました。普段利用しているバス停や道路、お店の周辺を重点的にみんなで清掃をしました。落ち葉をたくさん拾ったので、ゴミ袋も用意していた以上に使用し、ごみを運ぶのに苦労しました。



以前A型を利用していた人は昔の作業を思い出して草を上手に切ったり、集めたりしていました。足の不自由な人はホームのまわりの草むしりを行ってもらいました。外ホームの作業中に散歩されていた町内の方が突然、「ありがとね」と話しかけてくださり、笑顔で「よかと、よかと」と返事をしている様子も見られました。地域の方々と少しでも、このような交流の機会を増やせるような企画を自治会役員と共に提案して、自治会活動を少しでも活発にしていきたいと思っています。



(池永 裕介)

杜垣荘のとある光景

高木トシコさんは悠炉里で最年長者です。元氣すぎるほどの勢いがあり、職員の目の届かない所では歩行車を使用せず歩かれ困っています。

外ホームに二人の息子さんがおられ時折顔を合わせては、その瞬間に母親になられます。先月小G活動に参加された安彦さん、安昭さんがお土産を持って来られました。シャイな息子から無言でお土産を渡され、それでも、母親らしい満面の笑みをうかべ、「ありがたい」と大きな声で言われました。親子の和みのある光景を目のあたりにして、いつまでもこの光景が続いてほしいと願うひと時でした。

(田中 史子)



長与へお出かけ♪

十月二十三日(木) 小グループ活動で長与町へ出かけました。

今回の目的地は「ゆりの温泉」「ドン・キホーテ時津店」。参加された利用者さんは馬場さん、高濱さん、上村さん。森さんです。職員三名で引率しました。

ゆりの温泉では、従業員の皆様が温かく迎えて下さりました。入浴は二グループに分かれてマンツーマンで支援。短時間を好むグループはさっぱりと、ゆっくりグループは会話を楽しみながら温泉を満喫されました。昼食では風呂あがりのビールも飲み「美味しい」と満足の声が上がりました。午後からは、ドン・キホーテで買い物。店舗の広さに驚かれつつ、欲しい物を見て周りました。数珠ブレスレットやインナー等好きな物を購入し、買い物を楽しみました。この経験を活かし、次に繋げていきたいと思っています。

(植木 邦剛)



今後の予定

◎12/7(日)

悠炉里自治会忘年会

◎R8年1/18(日)～20

(火) 小G活動愛知

木場田学さん あいさつ

今年に入り体調に異変が見られ、入院生活をされていた学さん。時折、弟・巖さんが会いに来られ、「兄貴、元気ださんば。」と声を掛けられていましたが、10月25日、秋晴れの夕暮れにご家族に看取られ、安らかに天に召されました。

メモリアル映像では、60年余りの施設での生活をながされ、マラソン選手として日々の練習や大会への参加、作業では建築作業も進んで参加されている姿が偲ばれました。旅行にも行き、友と過ごす時間。思い思いの学さんとの思い出はつきません。

長いこと離れた五島に眠るご両親のところへ戻ります。どうか、私たちを見守っていてください。

(井村 一美)



故郷を離れた友達らが帰省することが多くなったこの頃。そのたび地元の友から集まりへのお誘いのラインがくる。嬉しいものですね。

なぜか、ほっとする時間を過ごせるように思え、私は時間が合えば参加しています。

二十歳の時から五年毎に行っていた同窓会。調整がつかず、還暦を迎えた時には開催できなかっただけに、時折会う機会があると楽しみも倍になる。

プチ同窓会。この時だけは、若かったあの頃を思い出して昔話に花が咲く。そんな時を過ごすときまだ年には負けられないというやる気が増され、その頑張りを幸せに感じられる。友との再会、いつまでも続いて欲しい「宝の友」これからも大切な時間を過ごせればと願う今日この頃です。

統括 井村一美

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 11月号

最高の思い出

十月三十一日から雲仙温泉雲荘へ利用者、保護者、職員で一泊旅行に行ってきました。昼間は雲仙を各班に分かれて散策。地獄巡りや名物の温泉玉子や湯せんぺいアイスを食べたり、それぞれ楽しまれました。近場ではあったものの普段行くことがなく、新たな発見もありました。

宴会では、中尾悟さんの司会進行で始まり、美味しい料理に大満足した様子で、カラオケやビンゴゲームでも大いに盛り上がり、普段とは違う表情をみることが出来ました。

今回は近場の旅行ということもあり、宿泊が難しい方は宴会のみ参加されるなど、たくさんの方と交流することができ、良い思い出になってくれたことと思います。帰りの車内では、「来年は、〇〇に行きたい」と話がつきませんでした。また明日から頑張っていきましょう。(主任 松尾浩道)



散策♪天候にも恵まれました



職員とデュエット

仲良し親子ショット



日頃の備えはしっかりと

9月20日、年4回計画している避難訓練を、今回は実際の活動場所で行いました。

有事の際に、怪我をしないように大事な命を守る為、落ち着いて正確な判断指示が出来る様に、安全を最も重視して訓練を開始。職員の指示をしっかりと聞き、利用者の方も落ち着いた避難が出来ていました。災害は、いつ何処で起きるかわかりません。これからも、油断しない様に、訓練していきたいと思います。

(井上)



避難後の説明、指導の様子



人数確認は、しっかりと

みんなで歩く楽しさ♪

九月十五日、口之津町で開催されたユニバーサルオルレに参加してきました。当日は、晴天に恵まれましたが、前日の雨の影響で足場が悪く、滑りそうになりながらも怪我する事なく、全員がゴールまで歩く事が出来ました。

チェックポイントでは、スポーツドリンクや、かき氷、クッキー、素麺等の振る舞いもあり、篠笛や太鼓の演奏に心癒され一息つくことができた利用者の方の笑顔が見られました。

多目的施設「東望」にて、昼食を摂りカラオケをみんなで歌い、楽しい一時を過ごしました。「きつかったけど、又歩きたい」「太鼓が良かった」等、感想を話してくれて、会話が盛り上がった一日でした。

(古賀)



ゴールを目指して



早崎灯台でのショット

散歩道

先日、高校一年になる一人息子のバスケットの試合を観戦する為、佐世保へ。惜しくも負けましたがチームワークや、仲の良さはどのチームより負けません。部員も六人と少なく、普段の練習でも対戦する事が出来ませんが「継続は力なり」の精神で、結果を残せるように頑張りたいと思います。

(副主任 林田まゆみ)

ワークネットやはたの今日のこの人

今回は「大村 航太」さんです。

Q実習先では、どんな事をされてますか？

「お菓子の焼きあがった耳をおとす作業や、袋詰めをしています」

Q趣味は何ですか？

「漫画を読む事が好きで、休みの日になると愛野町まで本を買いに行ってます」

小浜食糧(株)様へ実習に行き始めて6年目を迎えた航太さん。これからも、職員一同サポートしていきます。体調に気を付けて、実習も、アイロン作業も頑張らしましょうね。





ディ雲梯の木 所長 原口由紀子

「伊藤家のお墓は、小値賀にあるのかしら？もしあるなら、あなたとはいれるのかな？」と疑問が沸いてきました。入居者が亡くなられた際の納骨先の確認は、僅かな手がかりから、ご本人が存命中に解決しておきたい「難しい課題」です。



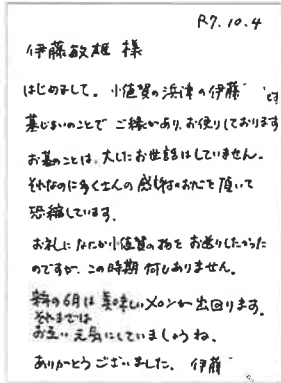
(苑田・下田)



島鉄バスで有家から島原まで

縁を繋いだのだと思っています。

い事から、施設を訪問して面会を重ねて二年をかけて、本人の同意のもと、令和七年九月お墓の改葬と寺の納骨墓の申し込みを済ませました。私たちは、ご先祖の骨の処分によって彼の故郷との縁切りの役目をしたのではないかと悩みました。ところが、この事から、これまで供養をしてくださっていた従兄弟が見つかり、交流が始まっています。ご先祖がご



敏雄さん宛てのお手紙

小値賀には、高祖父母、祖父母と父親の名が刻まれた立派なお墓があり、この先彼が供養できな

美味しいごはん
が作れるように頑
張ります



山崎博信 世話人



売店(これ波これ和)
情報が充実♪



←ディズニーのメインスタグラム

売店(これ波これ和)
情報が充実♪

就職で南島原市に来て、長崎市にある実家には元々年に数回程度しか帰っていなかった私ですが、昨今は両親の高齢化に伴い、以前より帰る回数が多くなりました。私の兄弟も家を出ているため、都合がつく者が親の通院に付き添ったり、その他の用事を済ませたりしています。

言の葉

6 日 フェスティビ^{*} タスナタリス

20 日 利用者忘年会※

22日 ゆず湯

26 日 もちつき

27・29 日弁当の日

※印は参加費あり

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

年振りであろうかと考えながら、「恥ずかしさ」や、言い難い「寂しさ」も感じました。気づけば母も八十代。相変わらずの口は達者で、老いは感じられませんが、身体は十分歳を重ねていると実感しました。

こうした体験は、増加すると考えられますが、後悔だけはしないよう自身に言い聞かせました。

(惠理)

特集

みんなの笑顔が
オンリーワン

八雲寮 施設長 志賀常盤

ほかにわ共和国の動き

12月27日 理事会
12月27日 法人歳忘祭
1月5日 新年研修会



デイ雲・デイ雲柿の木グループの児童による選手宣誓でいざ開幕

令和七年十月十一日、西有家防災広場にて「ほかにわ秋季大運動会」を開催しました。一昨年も同会場で開催予定が、あいにくの雨のため体育館での開催となりました。今年は雲一つない秋晴れに恵まれ、清々しい空気の中で実施することが出来ました。利用者の高齢化・重度化が進む一方、児童から壮年まで幅広い世代が参加し、年代を超えた自然な交流が随所で生まれたことは、本大会の大きな特色でした。例年実施している行事ですが、マンネリ化を防ぎつつ、競技内容の工夫には毎回試行錯誤が求められます。今年はその一環として、しばらく実施していなかった「綱引き」を復活させました。シンプルながら力を出し合う競技特有の熱気があり、応援席からも声援が飛び交い、会場全体が大いに盛り上がりました。

また、競技間の雰囲気づくりを目的として放送係ではアドリブを交えた実況放送に挑戦しました。利用者の名前を呼びながらの実況や、その場の状況に合わせたコメントが笑いを誘い、会場にはリラックスした空気が広がりました。

「ほかにわサポーター」です。今年は三十三名と多くの申し込みがあり、各係に配置して大会を支えてくれました。なかには毎年欠かさず参加してくれる生徒もあり、職員とそんな働きぶりや会場運営を支えてくれました。一人ひとりの力が積み重なり、大会を安全かつ円滑に進行できたことは、まさに地域に根ざした福祉の姿だと思います。このサポーターの存在が法人にとって貴重な宝物であると感謝します。

あなたと私のエピソード

私は入職して8年になります。2年間ホームと一緒に過ごしてきた方との話をしたいと思います。その方は医者よりたばこを止めて禁煙するように指示を受けられ、本人も納得した上で禁煙に取り組まれました。

最初の2ヶ月間は頑張っていました。自分に甘えが出てわからないようにたばこを吸われています。その人とゆっくり話をして禁煙した時の事を思い出させてまた頑張るように支援しました。その事が何回もありましたが、やっと禁煙に成功しました。人間は何回も話をすることで意思疎通ができて信頼関係が築けたのだと思います。

今でもたまに会うと気楽に話をかけてこられる関係となっています。(悠炉里 小倉徳男)



〈食育考〉

八雲寮では「見て、香って、食べて美味しい栄養満点で安心安全な食事作り」をモットーに給食を提供しています。しかし現在、利用者39食のうち約3分の1の方が特別食となっており、最初に掲げた目で見て美味しい食事提供の維持が困難になってきています。ソフト食やムース食への移行も理想ですが、現在の人員体制、厨房の広さでは難しい状況です。利用者の重度化と小学生から87歳までという幅広い年齢層の利用があることから給食提供は重要な過渡期にあります。この課題に対し、私一人の力では対応が難しく、職員が一丸となってより良い提供方法を見出したいと考えています。利用者の皆様が食事を楽しみにされているように「食べる」ことは「心と体の健康を維持」と「食事の重要性・楽しさの理解」という大切な役割をもっています。

私たちはこの役割を果たし、利用者の皆様が幸せな生活を送れるよう願っています。(栄養士 高橋亮子)



昼食の様子

**マイフォーム
マイコレクション**

私のマイブームは、ナッツです。ここ半年ほどナッツにはまっています。特に好きなのはカシューナッツ、ピーナッツ、アーモンド、マカダミアナッツです。テレビを見ながら一粒一粒ゆっくり味わって頂くのが最高の時間です。

「ワークネットやはた」(小笠原勝治)